

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和7年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校 校長 森本 裕美

1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 藤本洋美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田 尚子
委員	各学部長 主幹教諭 指導教諭・研究課長 人権進路課長 教務主任	福原薰 宮本洋子 谷口夏紀 森浩一 山田千代 二宮智子 片寄恭代 高木奈緒子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(高等部) 幼児児童生徒の状況				
よさ	人との関わりを好み、学習活動に意欲的に取り組むことができる。係活動など決められた役割を進んで行うことができる。	課題	身体的制約や経験不足により、校外の人との関わりには不安が大きく、自分の気持ちや考えを伝える経験が不足している。	
			評価	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況	
エシカル啓発活動や乳児院訪問など校外での活動を通して、自分の思いや考えを伝える力を育み、地域の人々との関わりの中で、社会の一員としての自覚をもって行動しようとする。		校外での活動において、1人1回以上、他者に向けての働きかけができる。		
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況	
①事前学習を行い、活動先や活動内容を写真や動画で提示したり、模擬体験できるようにすることで、生徒が安心して参加できるようにする。 ②生徒の実態や役割に応じ、コミュニケーション機器などを使って発信できるよう、個々に支援する。		①校外活動の前に、学部全体及びグループで事前学習を行い、内容や役割、他者への発信方法を確認する。 ②校外での活動中に、他者と関わる場面を1回以上設け、記録に残す。		
* 中間期の見直し				
達成状況を踏まえた改善事項				